

杜陵

だより

第4-2号

発行：岩手県立杜陵学園
(児童自立支援施設)
〒020-0124 盛岡市
岩手県盛岡市
厨川二丁目3番1号
電話：019-641-3365

一年を振り返って

岩手県立杜陵学園長

蛭田 嘉男

新型コロナウイルス感染症の対応も徐々に緩和され、今年度は野球大会やスキー教室など三年ぶりにほとんどの行事を行うことができました。行事に向かうときのバスのにぎやかな様子や帰る時の静かな車内、始まる前のワクワク感や全力を出し切った後の心地よい疲労感など、普段とは違う雰囲気や園外活動の大切さをひしひしと感じた一年でした。

特にこの夏、岩手県で開催された第73回全国少年野球大会は、三年ぶりに開催することができたという以上の意義を感じています。前年度から開催県の事務局として、県内外の多くの関係機関と調整を重ねてきた中で、コロナ禍での開催、各県が趣向を凝らし、年々盛大に開催される一方で、事務局を担う

第73回全国少年野球大会の様子 優勝チームの胴上げ

施設側の体制の脆弱さと負担の大きさ等、多くの課題が見受けられました。これらの課題を解決し、当園のような小規模施設でも事務局を担えるように参加チーム数や式典の縮小、開催費の軽減等合理的・効率的な運営を心がけました。当園が行った取り組みが、今後の大会運営の参考例の一つとなれば幸いです。

前述の通り、今年度は第73回全国少年野球大会を中心に学園運営をしてきましたが、学園生活の基本は日常の生活そのものであると考えております。毎日、日課に沿った枠のある生活を繰り返すことで、児童は徐々に自立に向けて力を身につけています。児童が落ち着いて日課に沿った枠のある生活ができるよう、寮の編成や日課の調整、暴力等の防止に向けた個別面談などの取り組みを行っています。

また生活の安定を図るために、学習や各種活動もその時々の子どもの状況に応じて緩やかにしたり、一方で生活にメリハリを持たせるため、取り決めが曖昧になっていったものをルールとして明文化したりと、悩みながら試行錯誤を繰り返しております。児童自立支援施設を運営していく中で、その年毎に課題は見受けられますが、それを解決しながら来年度もより良い支援を児童に提供していく次第です。

今回の「杜陵だより」は今年度の学校や学園の日々の活動の報告が主となっております。学園生活の柱となっているそれぞれの活動について、少しでも現状と課題について知っていただければ幸いです。

子どもたちの日常の一コマ

事業報告生口

分校・分教室事業報告

今年度も児童一人ひとりに応じ、「自己を見つめ、こころ豊かにたくましく生きる児童生徒の育成」を目指して、学校教育を行ってきました近年、特別な支援を必要とする児童生徒が増える中、授業や進路指導には細心の注意を払い、工夫を凝らして取り組んできました。基礎的な事項を精査し、きめ細やかな指導を行う中で、児童生徒の学習意欲は向上し、将来を見通して日々の学習に取り組む姿が多く見られています。

今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、ほとんどの行事を行うことができました。

葛巻高原牧場への遠足では、乳牛への餌やり体験やアイスクリーム作りなど貴重な体験をすることができました。学習発表会ではスライド発表、詩の朗読、ピアノ演奏、さんさ太鼓、合唱、学年展示といった様々なことに取り組み、日頃の学習の成果を存分に発揮することができました。

また、修学旅行は、中学三年生二名が秋田・男鹿半島に行き、思い出に残る行事となりました。

来年度も児童生徒に寄り添い、多くの学びの機会を提供していきたいと思えます。
(觸澤)

修学旅行の様子

学習発表会

ピアノ演奏の様子

生活指導班事業報告

児童自立支援施設では「枠のある生活」という言葉がよく使われます。これはゆったりとした自然環境の中で空間的、時間的な枠組みが作られていることを指します。児童は外部刺激を一定程度遮断した環境の中で規則正しい生活を過ごしながら、子どもたちが将来自身の課題改善のために日々努力しています。職員は児童と常に一緒に活動しながら、健全な社会生活を送ることができるよう、様々な生活場面の中で集団的かつ個別的な指導と援助を行っています。

その他、自立支援の充実のために生活指導班が取り組むべきことの一つに、「みんなが安心安全に暮らすことができるよう暴力を無くすこと」があります。そのために、当園では地域や児童相談所の協力を得て安全委員会を設置しています。毎月一回、担当支援員が児童から個別に暴力の有無に関する聞き取りを行い、その内容を毎月一回開催する安全委員会にて報告しています。安全で安心な生活の実現を果たすため、安全委員会を活用しながら暴力等の未然防止を図っていきたく考えています。(佐々木聖人)

作業指導事業報告

作業指導班では、夏季は農作業、冬季は清掃活動や除雪作業に取り組んできました。

農作業では畑にたい肥や石灰を混ぜる土づくりから行いました。そして畝をつくり、苗を植え、水やりや草取り作業にみんなで取り組み、一生懸命、野菜を育てました。厳しい自然が相手なので、芽が出なかつたり、野生動物に食べられたりした野菜もありました。しかし、それ以上に多くの野菜が実り、頑張つて育てた野菜を収穫できたときの喜びをみんなで共有できました。十一月には、学園で収穫したさつまいもを使って焼き芋をしておいしく食べることもできました。

収穫祭の様子
焼き芋を焼いています

学校や寮内の清掃活動や、雪が降ると雪かきなどの作業にも取り組みました。また、調理体験の時間もありました。ハンバーグなどの定番メニューや時季に合わせたメニューなど、いろいろなメニューにチャレンジしました。作業活動の時間は、馴染みのない活動に挑戦する機会が多くあります。杜陵学園にいるからこそ体験できたことだと思っています。この経験が今後の糧になることを願っています。
(畑)

スポーツ指導事業報告

令和四年度のスポーツ活動は、野球、バドミントン、マラソン、スキーに取り組んできました。その中でも、野球は宮城県で開催された全国少年野球東北・北海道地区大会に参加し、マラソンは、矢中ロードレース大会に参加することができました。日頃の練習の成果を発揮する良い経験になったと思います。

バドミントンについては、北奥羽スポーツ交流会が中止となり、悔しい思いをしたと思います。それでも、投げ出すことなく、最後まで日課に取り組みました。

スキーは、八幡平パノラマスキー場でスキー教室を実施しました。経験が全くない子どもがいましたが、無事に事故なく滑りきることできました。

どの活動も、大会が開催されるか、子どもたちは不安だったと思います。また、夏には野球の全国大会が岩手県で開催されたこともあり、日課の変更等で子どもたちの思い通りにならないことも多かつたと思います。それでも、弱音を吐かずに、最後まで取り組むことができた子どもたちは、大きく成長しました。来年度も、スポーツを通して、子どもたちの成長を見守っていきます。(岩脇)

スキー教室の様子

学習指導班事業報告

今年度、当園の行事は四月のお花見会から始まりました。三年間新型コロナウイルス感染症や悪天候の影響で実施できずにいましたが、今年度は天候にも恵まれ無事に児童・職員とともに芝生の上で昼食をとることができました。

五月には遠足で葛巻高原牧場へ行きました。育成牛の世話や動物とのふれあいは児童にとって貴重な経験になり、命の大切さや食についての知見を深める良いきっかけになりました。

学習発表会は児童がさんさ太鼓や合唱等それぞれリーダー役を担うことで、児童の個性を伸ばすとともに、責任の重みや団結することの重要性を理解することができました。それぞれ所属する学級の飾りつけを行い、来賓や親御さんを喜ばせようと担任の先生や職員、児童同士で相談しながらレイアウトを生懸命考えている姿が印象的でした。発表会当日は児童全員が持っている力を出し切り、児童と職員が協力したことで成功を収めることができました。

そのほか学習指導班ではクリスマス会の企画や杜陵塾の開催等を実施しました。クリスマス会では各寮で児童が余興を企画・立案し実行することで、柔軟な発想を持つことや他者の意見を受容すること、意見をまとめる力を身に付けることができたのではないかと考えます。

次年度も引き続き児童にとってより良い学びを提供することができるよう邁進していきます。(野々口)

クリスマス会の様子

編集後記

今年度の杜陵だよりは、今回で最終号となります。杜陵だよりの編集作業は、いろいろな行事や出来事を振り返る貴重な機会となりました。子どもたちに信頼される大人でありたいものがきながら、子どもたちの頑張りや成長に背中を押しもらった一年でした。(千葉)

主要行事(4月~10月)

- 4月 始業式・決意発表会、グラウンド開き、お花見会
- 5月 ゴールデンウィーク、遠足
- 7月 全日本少年野球東北・北海道地区大会、反省作文発表会・終業式
- 8月：2学期始業式、全日本少年野球大会
- 9月：北奥羽児童自立支援施設スポーツ交歓会
- 10月：学習発表会

児童入所状況

(単位：名)

月	10	11	12	1	2	3	延計
月初人数	9	10	10	9	10	11	
月中入所	1	0	0	1	1	0	
月中退所	0	0	1	0	0	2	

皆様からの御意見・御感想は、インターネットでも受け付けております。

<http://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/011283.html>